

指標測定				
実績値測定	インプット			
	財政的資源	なし	×	
	その他資源	なし	×	
	アウトプット	(平成15年度) 立入検査の実施率 (94.8%)		○
		(平成15年度) 立入検査件数 (8,645件)		○
	中間アウトカムA	なし	×	
	中間アウトカムB	(平成15年度) 立入検査の結果【遵守率】 (96.7%)		○
外部要因	なし		×	

測定結果についての考察			
実績値測定した結果、達成（未達成）の明示			
評価・分析	インプット		
	財政的資源	なし	×
	その他資源	なし	×
	アウトプット	なし	×
	中間アウトカムA	なし	×
	中間アウトカムB	なし	×

測定結果の要因についての考察		
インプット	なし	×
財政的資源	なし	×
その他資源	なし	×
アウトプット	なし	×
中間アウトカムA	なし	×
中間アウトカムB	なし	×
総合評価と提言		
総合評価		
測定結果の評価・分析に基づいた評価	【有効性の評価】 高い遵守率が保たれていることから、医療の質の向上に有効であると評価できる。	○
	【効率性の評価】 立入検査は事務事業であることから、各都道府県等の責任の下、主体的に地域の実情に応じた検査が行われている。また、特定機能病院については、各都道府県等と厚生労働省とが合同で実施するなど効率的に検査がなされている。	○
	【総合的な評価】 医療法に基づき立入検査を毎年実施することを通して、医療法に基づく施設等の基準について高い遵守率が保たれていることから、施策目標の達成に向けて進展があったと評価できる。	○
	【総合的な評価】 医療機関における安全管理のための体制の確保等について医療事故防止対策の取組強化が図られるよう指導することなどについて、都道府県に対して技術的助言を行っている。	○
	【総合的な評価】 各都道府県と厚生労働省が合同で実施する特定機能病院の立入検査については、実施率が100%となっており、安全管理のための体制確保について指導が徹底され、医療の安全性を高めている。	○
特定の測定結果を重視する場合、理由の明記	なし	×
提言	なし	×

評価・分析

<資料1>

コメント【1-1-IV】

【基本目標】：安心・信頼してかけられる医療の確保と国民の健康づくりを推進すること

【施策目標A】：地域において適切かつ効率的に医療を提供できる体制を整備すること

【施策目標B】：医療の質を向上させるために医療法に基づく基準を遵守させること

1. 前提

- ・ 前提項目は全て記入があった。
- ・ 「課題やニーズの明示」は評価欄に記載があったが、冒頭に記述されたほうが望ましい。

2. 各要素の評価について

(1) インプット（財政的資源）

- ・ インプット（財政的資源）が明示されていない。したがって指標の測定や測定結果の評価・分析もなされていない。

(2) インプット（その他資源）

- ・ インプット（その他資源）が明示されていない。したがって指標の測定や測定結果の評価・分析もなされていない。

(3) アウトプット

【全国の病院に対し医療法に基づく立入検査を原則年1回実施する】

- ・ 「全国の病院に対し医療法に基づく立入検査を原則年1回実施する」というアウトプットが明記されていた。
- ・ 指標として「立入検査の実施率」、「立入検査数」が設定されており、データ収集について「各指標は各自治体に取りまとめ厚生労働省に報告。厚生労働省は報告内容等を確認のうえ公表」との記載があった。
- ・ しかし、目標が設定されていないため、達成・未達成を示し評価・分析を行うことができなかった。

(4) 中間アウトカム

中間アウトカムA【地域において適切かつ効率的に医療を提供できる体制を整備すること】

中間アウトカムB【医療の質を向上させるために医療法に基づく基準を遵守させること】

- ・ 中間アウトカムは明示されていた。
- ・ アウトカムAについては指標設定が行われていないために、測定や結果の明示ができない。
- ・ アウトカムBについては、「立入検査の結果（遵守率）」という指標設定が行われていた。しかし、目標設定がないため結果の明示が行えなかった。

(5) 最終アウトカム

【安心・信頼してかけられる医療の確保と国民の健康づくりを推進すること】

- ・ 最終的に目指すべき状態である最終アウトカムは明示されていた。

(6) 外部要因

- ・ 外部要因が全く示されていないため、測定や評価・分析を行うことができない。例えば、「立入検査の実施（アウトプット）」以外で「医療法に基づく基準の遵守（アウトカムB）」に影響を与えるものなどを示す必要がある。

3. 測定結果の要因分析に役立つ項目に関する評価について

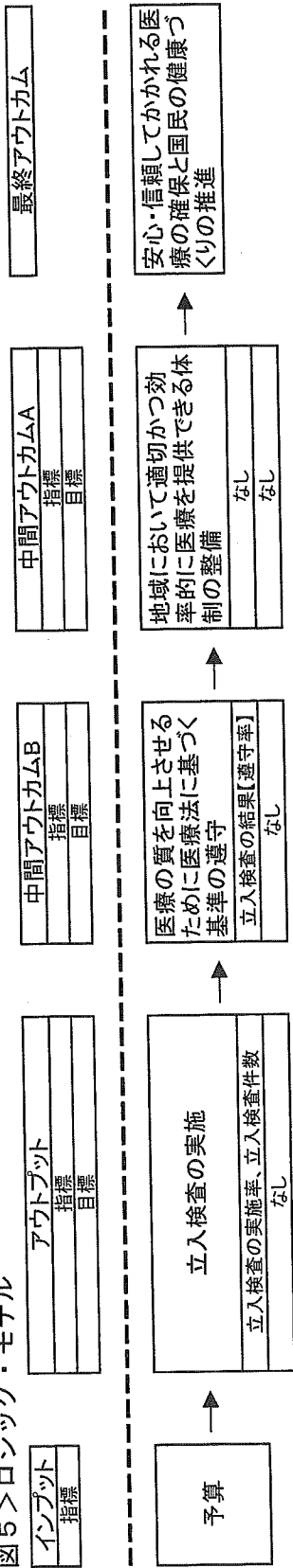
- ・ 因果関係の説明がないため、実施される事業の論理的根拠が不明確になっている。
- ・ また、因果関係の説明が行われていないため、「測定結果の要因についての考察」を実施できていない。

4. 総合評価・提言について

- ・ 測定結果の評価・分析は記載があったものの、目標設定が行われておらず、「高い遵守率が保たれていることから医療の質の向上に有効であると評価できる」との記述だけであった。
- ・ 評価・分析は理論モデルで示される指標・目標設定、測定の一連の流れを踏まえることが必要である。
- ・ 「提言」については、「総合評価」で測定結果に関する評価を行ったので、今後の方向性（継続すべきである、廃止すべきである等）についての提言がなされるべきだが行われていなかった。

ロジック・モデルは以下のように示される（図5）。

＜図5＞ロジック・モデル



「チェックリスト」から各要素（インプット（財政的資源・その他資源）、アウトプット、アウトカム、外部要因）に関連する項目だけを抽出し、並び替えると以下のように示される（表7）。

＜表7＞要素ごとに見る評価結果

(網掛けは対象外)

	理論モデル作成			実績値測定		評価・分析 実績値測定した 結果、達成 (未達成)の明示
	各要素の明示	指標設定	指標の妥当性の説明	目標設定	測定方法・データソース	
①インプット(財政的資源)	x				x	x
②インプット(その他資源)	x				x	x
③アウトプット	○	○		x	○	x
④中間アウトカム	○	△	x	x	△	x
⑤最終アウトカム	○					
⑥外部要因	x	x	x		x	x

<表 8>実績評価書 政策体系【1-5-II】

厚生労働省 実績評価書

平成17年8月

政策体系	番号	
基本目標	1	安心・信頼してかけられる医療の確保と国民の健康づくりを推進すること
施策目標	5	感染症など健康を脅かす疾病を予防・防止するとともに、感染者等に必要な医療等を確保すること
	II	治療方法が確立していない特殊の疾病等の予防・治療等を充実すること
担当部局・課	主管部局・課	健康局疾病対策課
	関係部局・課	

1. 施策目標に関する実績の状況

実績目標 1	医療の受診機会を増加させること				
(実績目標を達成するための手段の概要)					
難病特別対策推進事業により、概ね二次医療圏ごとに1カ所ずつの難病医療協力病院を確保し、そのうち原則として都道府県に1カ所を拠点病院に指定し、入院治療が必要となった重症難病患者に対し、適時適切な入院施設の確保等が行えるよう、難病医療提供体制の整備を推進した。					
○ 関連する経費（平成16年度予算額）					
・ 重症難病患者入院施設確保事業 139,308千円					
(評価指標)	H12	H13	H14	H15	H16
都道府県の難病医療拠点病院・協力病院数（各年度末現在）	755	1,122	1,256	1,525	1,554
(備考)					
実績目標 2	難病に係る情報を広く国民に提供するべく、難病情報センターへのアクセス件数について前年度を上回るものとする				
(実績目標を達成するための手段の概要)					
財団法人難病医学研究財団の設置する難病情報センターにおけるインターネットのホームページのメニューを充実するなどにより、国民への情報提供を推進した。					
○ 関連する経費（平成16年度予算額）					
・ 難病情報センター事業 32,132千円					
(評価指標)	H12	H13	H14	H15	H16
(各年度末現在)	2,670	4,490	6,074	7,848	10,192
(備考)					

2. 評価

(1) 現状分析

現状分析

難病についての根治療法は未だ確立されていないものの、様々な調査研究の結果、いくつかの疾患では大幅な予後の改善が見られているところであり、医療の受診機会を増加させることと併せ、難病に係る情報を広く国民に提供することにより適切な治療に繋がることが推進され、十分に成果をあげてきたと言える。

その一方で、未だ原因も解明されていない疾患が多いことも事実であるとともに難病患者やその家族については、長期間の療養や介護を必要とすることなど、依然として多くの問題を抱えていることから、難病患者やその家族の様々な負担を軽減するため、引き続き所用の施策を推進していく必要がある。

(2) 評価結果

政策手段の有効性の評価

難病特別対策推進事業費補助金により、平成 16 年度末時点で、難病医療拠点病院・協力病院が全国に 1,554 病院（累計）整備されており、受診機会は着実に増加していると言える。

また、平成 16 年度における難病情報センターへのアクセス件数は約 1,019 万件となっており、情報提供の成果が十分に上がっていると言える。

政策手段の効率性の評価

難病医療拠点病院については、各都道府県に 1 カ所、協力病院については、概ね 2 次医療圏毎に 1 カ所の協力病院を整備することとしており、これにより満遍なく受診機会が得られるようになる。

また、難病情報センターにおいては、広く国民に対して最新の医学情報、医療機関及び相談機関の情報を提供するほか、難病治療に携わる医療関係者に対して、診療上必要な情報等の提供を行っており、インターネットの積極的な活用を通じて、効果的かつ迅速な情報提供を図っている。

これらの手段を総合的に実施することにより、特殊の疾病等の予防・治療等の充実が効率的に推進されている。

総合的な評価

本施策を進めることにより、最近 5 年間で難病医療拠点病院・協力病院が 2 倍以上に増加し、また、難病情報センターにおけるホームページのアクセス件数についても約 4 倍に増加していることから、難病患者に対する受診機会の増加及び国民への情報提供が効果的かつ効率的に行われており、施策目標は着実に達成されている。

しかしながら、難病患者は毎年増加・高齢化しており、療養上の悩みや不安に的確に対応するため、引き続き所用の施策を推進していく必要がある。

評価結果分類	分析分類
(2)	(2)

3. 特記事項

- | |
|--|
| (1)学識経験を有する者の知見の活用に関する事項
平成13年度に厚生科学審議会疾病対策部会難病対策委員会を設置し、今後の難病対策の在り方について検討を行い、平成14年8月23日に中間報告がとりまとめられたことを踏まえ、平成15年10月1日より事業評価の導入や医療費の自己負担の仕組みの見直し等を行ったところである。 |
| (2)各種政府決定との関係及び遵守状況
なし。 |
| (3)総務省による行政評価・監視等の状況
なし。 |
| (4)国会による決議等の状況（警告決議、付帯決議等）
なし。 |
| (5)会計検査院による指摘
なし。 |

※ 評価結果分類欄、分析分類欄の記号については、以下のとおり。

〔評価結果分類〕	
(1)目標を達成した	←本実績評価
(2)目標をほぼ達成した	
(3)達成に向けて進展があった	
〔分析分類〕	
(1)分析が的確に行われている	←本実績評価
(2)分析がおおむね的確に行われている	
(3)分析があまり的確でない	

出所) 厚生労働省

<表9>政策評価チェックシート②

厚生労働省(1-5-II)

《政策評価チェックシート》

前提	健康同疾病対策課	○
課題やニーズ	難病に係る情報を広く国民に提供することにより適切な治療に繋がれることが推進され、十分に成果をあげてきたと言える。その一方で、難病患者やその家族については様々な負担を軽減するため、引き続き所用の施策を推進していく必要がある。	○

ロジック・モデル		
各要素の明示		
最終アウトカム	安心・信頼してかかれる医療の確保と国民の健康づくりを推進すること。	○
中間アウトカムA	感染症など健康を脅かす疾病を予防・防止するとともに、感染者等に必要な医療等を確保すること。	○
中間アウトカムB	治療方法が確立していない特殊の疾病等の予防・治療を充実すること。	○
中間アウトカムB①	医療の受診機会を増加させること。	○
中間アウトカムB②	難病に係る情報を広く国民に提供すること。	○
アウトプット①	①重症難病患者入院施設確保事業	○
アウトプット②	②難病情報センター事業	○
インプット		
財政的資源B①	①重症難病患者入院施設確保事業 139,308 (千円) 【平成16年度予算額】	○
財政的資源B②	②難病情報センター事業 32,132 (千円) 【平成16年度予算額】	○
その他資源	なし	×
外部要因	なし	×
因果関係の説明		
アウトプット①→アウトカムB①	原則として、都道府県に1ヶ所を拠点病院に指定し、入院治療が必要となった重症難病患者に対し、適時適切な入院施設の確保等が行えるよう、難病医療提供体制を推進。	○
アウトプット②→アウトカムB②	難病情報センターのホームページのメニューを充実させるなどにより、国民への情報提供を推進。	○
中間アウトカム→中間アウトカム	なし	×
中間アウトカム→最終アウトカム	なし	×
外部要因→アウトカム	なし	×

理論モデル作成

指標（目標）設定			
指標設定			
中間アウトカムA	なし		×
中間アウトカムB	なし		×
中間アウトカムB①	なし		×
中間アウトカムB②	②ホームページアクセス件数		○
アウトプット①	①都道府県の難病医療拠点病院・協力病院数		○
アウトプット②	なし		×
外部要因	なし		×
指標の妥当性の説明			
中間アウトカムA	なし		×
中間アウトカムB	なし		×
中間アウトカムB①	なし		×
中間アウトカムB②	なし		×
外部要因	なし		×
目標設定			
中間アウトカムA	なし		×
中間アウトカムB	なし		×
中間アウトカムB①	医療の受療機会を増加させること		○
中間アウトカムB②	難病情報センターへのアクセス件数について前年度を上回ること		○
アウトプット①	なし		×
アウトプット②	なし		×

理論モデル作成

指標測定実施			
測定方法・データソース			
アウトプット①	なし		×
アウトプット②	なし		×
中間アウトカムA	なし		×
中間アウトカムB	なし		×
中間アウトカムB①	なし		×
中間アウトカムB②	なし		×
外部要因	なし		×
指標測定			
インプット			
財政的資源①	なし		×
財政的資源②	なし		×
その他資源	なし		×
アウトプット①	(H15) 1,525病院、 (H16) 1,554病院		○
アウトプット②	なし		×
中間アウトカムA	なし		×
中間アウトカムB	なし		×
中間アウトカムB①	なし		×
中間アウトカムB②	(H15) 7,848 (千件)、 (H16) 10,192 (千件)		○
外部要因	なし		×
実績値測定			

評価・分析

測定結果についての考察		
実績値測定した結果、達成（未達成）の明示		
インプット		
財政的資源①	なし	×
財政的資源②	なし	×
その他資源	なし	×
アウトプット①	なし	×
アウトプット②	なし	×
中間アウトカムA	なし	×
中間アウトカムB	なし	×
中間アウトカムB①	【有効性の評価】①難病医療拠点病院・協力病院が全国に1,554病院整備されており、受診機会は着実に増加していると言える。	×
中間アウトカムB②	【有効性の評価】②難病情報アクセスセンターのアクセス件数は約1,019万件で情報提供の成果が十分上がっているといえる。	○
測定結果の要因についての考察		
インプット		
財政的資源①	なし	×
財政的資源②	なし	×
その他資源	なし	×
アウトプット①	なし	×
アウトプット②	なし	×
中間アウトカムA	なし	×
中間アウトカムB	なし	×
中間アウトカムB①	なし	×
中間アウトカムB②	なし	×

注) 中間アウトカムB①に取り消し線を引いたことについては、『転記ルール1（表2）』参照。

総合評価と提言	
総合評価	<p>○ 【総合的な評価】 本施策の推進により、最近5年間で難病医療拠点病院・協力病院が2倍以上に増加した。また、難病情報センターホームページのアクセス件数についても約4倍に増加していることから、施策目標は着実に達成されている。</p> <p>○ 【効率性の評価】 各都道府県に1ヶ所、協力病院については、概ね二次医療圏毎に1ヶ所の協力病院を整備することとしており、これにより満遍なく受診機会が得られるようになる。</p> <p>○ 【効率性の評価】 広く国民に対して最新の医学情報、医療機関及び相談機関の情報を提供するほか、難病治療に携わる医療関係者に対して、診療上必要な情報等の提供を行っており、インターネットの積極的な活用を通じて、効果的かつ迅速な情報提供を図っている。</p> <p>○ 【効率性の評価】 上記の2つの【効率性の評価】より、重症難病患者入院施設確保事業と難病情報センター事業を総合的に組み合わせることで、治療等の充実が効果的に推進されている。</p>
測定結果の評価・分析に基づいた評価	○
特定の測定結果を重視する場合、理由の明記	×
提言	<p>なし</p> <p>○ 【総合的な評価】 難病患者は毎年増加・高齢化しており、療養上の悩みや不安に的確に対応するため、引き続き推進していく必要がある。</p> <p>○ 【現状分析】 医療の受診機会を増加させることと難病に係る情報を広く国民に提供することにより適切な治療につなげられることが推進され、十分に成果をあげてきたといえる。その一方で、未だ原因も解明されていない疾患が多いことも事実であるとともに難病患者やその家族については、長期間の療養や介護を必要とするなど、依然として多くの問題を抱えていることから、難病患者やその家族の様々な負担を軽減させるため、引き続き所用の施策を推進していく必要がある。</p>

評価・分析

<資料2>

コメント【1-5-II】

【基本目標】：安心・信頼してかけられる医療の確保と国民の健康づくりを推進すること。

【施策目標A】：感染症など健康を脅かす疾病を予防・防止するとともに、感染者等に
必要な医療等を確保すること。

【施策目標B】：治療方法が確立していない特殊の疾病等の予防・治療等を充実すること。

1. 前提

- ・ 前提項目は全て記入があった。
- ・ 「課題やニーズの明示」は評価欄に記載があったが、冒頭に記述されたほうが望ましい。

2. 各要素の評価について

(1) インプット（財政的資源）

【①重症難病患者入院施設確保事業 139,308（千円）（平成16年度予算額）】

【②難病情報センター事業 32,132（千円）（平成16年度予算額）】

- ・ インプット（財政的資源）は予算額の明示がされていたが、実際の投入量としての記載がないため最終的な評価・分析がなされていない。

(2) インプット（その他資源）

- ・ インプット（その他資源）は明示されていない。したがって指標の測定や測定結果の評価・分析もなされていない。

(3) アウトプット

【①重症難病患者入院施設確保事業】

- ・ 「概ね二次医療圏ごとに1ヵ所ずつの難病医療協力病院を確保し、そのうち原則として都道府県に1ヵ所を拠点病院に指定する」というアウトプットが明記されていた。
- ・ 指標として「都道府県の難病医療拠点病院・協力病院数」が設定されていたが、データ収集についての記載がなかった。また、指標に対応する目標（都道府県の難病医療拠点病院数や協力病院数など）も設定されていなかった。
- ・ 目標が未設定のため、アウトプットに関する評価・分析は行えなかった。

【②難病情報センター事業】

- ・ 「難病情報センターにおけるインターネットのホームページのメニューを充実する」というアウトプットが明記されていた。
- ・ しかし、指標が設定されていないために、目標設定・測定ができないため結果の明示ができない。
- ・ 「インターネットのメニューの充実」を表すアウトプット指標（例えば、メニュー数など）が必要である。

(4) 中間アウトカム

中間アウトカムA【感染症など健康を脅かす疾病を予防・防止するとともに、感染者等に必要な医療等を確保すること】

中間アウトカムB【治療方法が確立していない特殊の疾病等の予防・治療等を充実すること】

- ・ 中間アウトカムA、Bは明示されていたが、指標設定が行われていないために、測定や結果が明示されず、最終的な評価・分析ができない。

中間アウトカムB①【医療の受診機会を増加させること】

- ・ 中間アウトカムB①は明示されていたが、前述のとおりアウトプット①指標「都道府県の難病医療拠点病院・協力病院数」のみ示されており、中間アウトカムB①に関する指標は設定されていなかった。
- ・ 目標として「受診機会の増加」とあることから、中間アウトカムB①指標として「実際の受診率」等を設定しなければならない。
- ・ 実績値測定結果の明示として「難病医療拠点病院・協力病院が全国に1,554病院整備されており、受診機会は着実に増加している」との記載があるが、アウトカム目標（受診機会の増加）に対して、設定されている指標はアウトプット指標（病院数）であり、アウトカム指標は設定されていない。したがってアウトカム指標の測定結果の明示とはなっていない^(注)。

中間アウトカムB②【難病に係る情報を広く国民に提供すること】

- ・ アウトカムB②は明示されており、「難病情報センターのホームページアクセス件数」が指標として設定されていた。
- ・ 「前年度を上回ること」を目標に設定しており、測定や結果の明示（「難病情報アクセスセンターのアクセス件数は約1,019万件で情報提供の成果が十分上がっている」）、結果に基づく評価・分析が行われていた。

(5) 最終アウトカム

【安心・信頼してかけられる医療の確保と国民の健康づくりを推進すること】

- ・ 最終的に目指すべき状態である最終アウトカムは明示されていた。

(6) 外部要因

- ・ 外部要因が全く示されていないため、測定や評価・分析を行うことができない。例えば、「医療の受診機会を増加させること（中間アウトカムB①）」や「難病に係る情報を広く国民に提供すること（中間アウトカムB②）」以外で「治療方法が確立していない特殊の疾病等の予防・治療等を充実すること（アウトカムB）」に影響を与えるものなどを示す必要がある。

^(注) 本実績評価書では、中間アウトカム（医療の受診機会を増加させること）とアウトプット（重症難病患者入院施設確保事業）の区別に注意を要するケースである。「重症難病患者入院施設確保事業」はサービス提供者である厚生労働省が行う事業である。一方、「医療の受診機会の増加」はサービスの顧客である重症難病患者の側に期待される状態の変化である。前掲の定義（アウトプットはサービス提供者が生み出すもの、アウトカムはサービスの顧客側の変化）であることを考慮すると、「重症難病患者入院施設確保事業」がアウトプット、「医療の受診機会の増加」がアウトカムである。

3. 測定結果の要因分析に役立つ項目に関する評価について

アウトプット①と中間アウトカムB①の因果関係

「原則として、都道府県に1ヵ所を拠点病院に指定し、入院治療が必要となった重症難病患者に対し、適時適切な入院施設の確保等が行えるよう、難病医療提供体制を推進」

アウトプット②と中間アウトカムB②の因果関係

「難病情報センターにおけるインターネットのホームページのメニューを充実させるなどにより、国民への情報提供を推進」

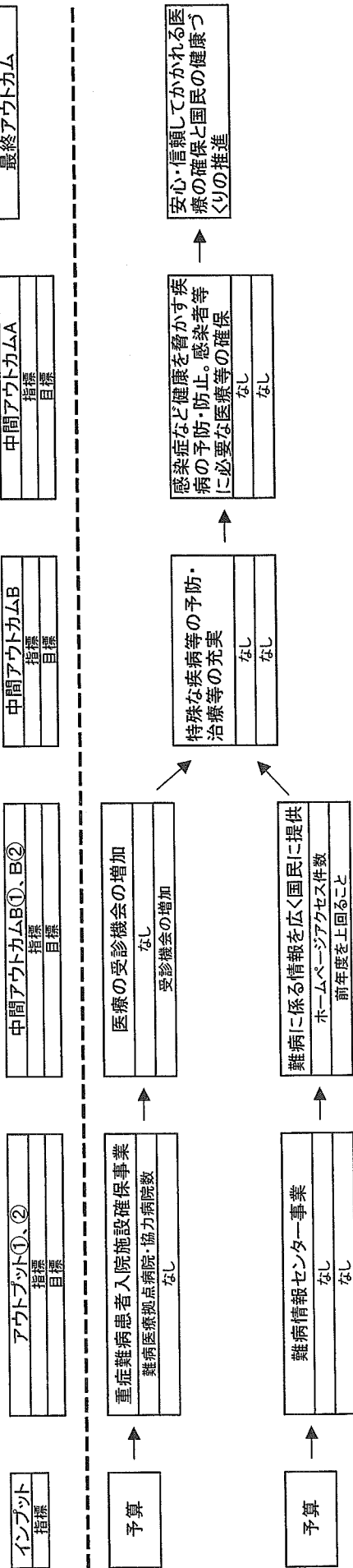
- ・ アウトプットとアウトカムの因果関係は上記のとおり記載があった。
- ・ その他の因果関係には説明がないため、実施される事業の論理的根拠が不明確になっている。
- ・ 測定結果の要因について考察は実施されなかった。特に、中間アウトカムB②については達成・未達成の明示を行っているので、要因考察がなされることが望ましい。

4. 総合評価・提言について

- ・ 総合評価については、「重症難病患者入院施設確保事業と難病情報センター事業を総合的に組み合わせることにより、特殊な疾病等の予防・治療等の充実が効率的に推進されている」などの記載があった。
- ・ ただし、評価は中間アウトカムBまでのもので、中間アウトカムAについての記載が全くなかった。中間アウトカムAの評価・分析を行うために指標設定・測定などが実施される必要がある。
- ・ 事業については「難病患者は毎年増加・高齢化しており、療養上の悩みや不安に的確に対応するため、引き続き推進していく必要がある」など、今後の方針について提言が行われていた。

ロジック・モデルは以下のように示される（図6）。

＜図6＞ロジック・モデル



「チェックリスト」から各要素（インプット（財政的資源・その他資源）、アウトプット、アウトカム、外部要因）に関連する項目だけを抽出し、並び替えると以下のように示される（表10）。

＜表10＞要素ごとに見る評価結果

(網掛けは対象外)

	理論モデル作成			実績値測定		評価・分析
	各要素の明示	指標設定	指標の妥当性の説明	目標設定	測定方法・データソース	
①インプット（財政的資源）	○					×
②インプット（その他資源）	×					×
③アウトプット	○	△		△	×	×
④中間アウトカム	○	△	×	△	×	△
⑤最終アウトカム	○					
⑥外部要因	×	×	×	×	×	×

2) 「チェックリスト」による情報整理

検証を行った2事例について、それぞれの「チェックシート」の評価欄(○・×)を「チェックリスト」へ転記した(表11)。結果は以下のとおり。

(i) 前提

- ・「担当部署の明示」や「課題やニーズの明示」は行われていた。

(ii) 理論モデル作成

①ロジック・モデル作成

- ・2事例ともアウトプット、アウトカム(中間・最終)は明示されていたが、外部要因、インプット(その他資源)は示されていないかった。
- ・事例2(政策体系1-5-II)で「アウトプット→アウトカム」の因果関係が説明されていたが、その他には説明がなかった。

②指標(目標)設定

- ・外部要因の指標が設定されなかった。アウトプットおよびアウトカムは、事例によって指標の設定状況が異なっていた。
- ・2事例ともに指標の妥当性についての説明は行われていなかった。
- ・目標についても、事例2のアウトカムの一部で設定されていたが、その他のアウトプットやアウトカムでは目標設定がなされていないかった。

(iii) 実績値測定

- ・事例1(政策体系1-1-IV)のアウトプットや一部のアウトカムにおいては、測定方法やデータソースが示されていたが、事例2では示されなかった。
- ・指標測定については、インプットや外部要因についての測定が行われなかった。

(iv) 評価・分析

①測定結果についての考察

- ・測定結果に基づく達成(未達成)の明示については、事例2の中間アウトカムの一部で行われたが、その他については行われていなかった。
- ・2事例ともに測定結果の要因についての考察が行われていなかった。

②総合評価と提言

- ・2事例ともに測定結果の評価・分析に基づいた評価は行われていたが、特定の測定結果に基づく場合の理由等は示されていないかった。
- ・事例2では提言が行われたが、事例1については提言が行われていなかった。

＜表 11＞チェックリスト

厚生労働省（1-1-IV、1-5-I）

《政策評価チェックリスト》

チェック項目	1-1-IV	1-5-I
前担当部署の明示	○	○
課題やニーズの明示	○	○
ロジック・モデル		
各要素の明示		
インプット		○
財政的資源	×	×
その他資源	×	×
アウトプット	○	○
中間アウトカム	○	○
最終アウトカム	○	○
外部要因	×	×
因果関係の説明		
アウトプット→アウトカム	×	○
中間アウトカム→中間アウトカム	×	×
中間アウトカム→最終アウトカム	×	×
外部要因→アウトカム	×	×
指標（目標）設定		
指標設定		
アウトプット	○	△
中間アウトカム	△	△
外部要因	×	×
指標の妥当性の説明		
中間アウトカム	×	×
外部要因	×	×
目標設定		
アウトプット	×	×
中間アウトカム	×	△

理論モデル作成

チェック項目	1-1-IV	1-5-I
指標測定実施		
測定方法・データソース	○	×
アウトプット		×
中間アウトカム	△	×
外部要因	×	×
指標測定		
インプット		
財政的資源	×	×
その他資源	×	×
アウトプット	○	△
中間アウトカム	△	△
外部要因	×	×
測定結果についての考察		
実績値測定した結果、達成（未達成）の明示		
インプット	×	×
財政的資源	×	×
その他資源	×	×
アウトプット	×	×
中間アウトカム	×	△
測定結果の要因についての考察		
インプット		
財政的資源	×	×
その他資源	×	×
アウトプット	×	×
中間アウトカム	×	×
総合評価と提言		
総合評価	○	○
測定結果の評価・分析に基づいた評価	×	×
特定の測定結果を重視する場合、理由の明記	×	×
提言	×	○

実績値測定

評価・分析

D. 考察

1. 検証を行った2事例からの考察

「政策評価の枠組み」に沿って作成した「チェックシート」を用いて、厚生労働省の「実績評価書」を2事例検証したところ、いくつかの問題が浮かびあがった。2事例をもって厚生労働省の「実績評価書」全般について論じることは出来ないが、2事例共通の問題として、「ロジック・モデル」(特に「因果関係の説明」)、「目標設定」および「測定結果についての考察」の記載が不十分であることがうかがえた(表11「チェックリスト」)。

(1)「ロジック・モデル」(特に「因果関係の説明」)が不十分

「各要素の明示」については、2事例ともにインプット(その他資源)と外部要因についての記載がなかった。外部要因は、当初の計画通りの成果が得られなかった場合の要因考察に役立つ項目であり、記載されることが望まれる。仮に、大きな影響を及ぼす外部要因が存在しないのであれば、その旨を記すことが必要だろう。

「因果関係の説明」については、当該の政策体系が問題解決のための有効な手段であることを論理的に示す非常に重要な項目である。「因果関係」の中には、一般的には自明であるようなケースも存在する。しかし、政策評価は一連の政策体系について国民への情報提供を1つずつ積み重ねていくことで、はじめて意思決定の判断材料に役立つ情報提供が可能となることから、「因果関係の説明」については丁寧に記載されるべきである。

(2)「目標設定」が不十分

「指標設定」がなされ実績値が測定されているものの、「目標設定」がされていないために、実績値の善し悪しが論理的に評価できないケースが2事例ともに見られた。

「政策評価の目的」として総務省のガイドラインで「成果重視の行政への転換」が挙げられていることは既にみたが、目標が設定されていなければ成果の度合いを判定することはできない。数値目標(数値化が困難な場合は、目標とする状態)を記載する必要がある。

(3)「測定結果についての考察」が不十分

「測定結果」は「総合評価」および「提言」の前提となる情報であるが、「測定結果」の善し悪しだけで、「総合評価」および「提言」がなされるべきではない。当然ながら、「測定結果」(達成・未達成)についての要因分析を踏まえる必要がある。特に、未達成であった場合は、なぜ未達成となったか考察し記載することで、当該政策・施策・事業を総括し、今後のあり方について提言することが可能となる。

2. 政策評価の枠組みの再考

政策評価は、前提となる項目のいずれか一つでも説明が不十分であると、それ以降の項目の説明が十分に行われない構造にある(図7)。

政策評価の結論部分である「総合評価」・「提言」は、「ロジック・モデル」と「測定結果」を踏まえたものでなければならない。「ロジック・モデル」を踏まえていなければ、因果関係があいまいで論理的とはい